慶應義塾 醫学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160−8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
診療時間　午前9時〜午前11時
電話（3353）1211（大代表）

平成21年度 医学部・病院事業報告

医学部・病院ともに黒字化へ

基礎・臨床一体型医学・医療の実現に向けた改革の成果

医学部長　末松　誠（医化62回）

平成21年度の慶應義塾の決算で、帰属収支差額で医学部・病院それぞれが凡そ7億、合計14億の黒字となりました。これは医学部・病院の教職員の皆様が一体となってこ数年の財務改革に惜しみないご協力をいただいた成果と考えております。この場を借りまして皆様に御礼を申し上げたいと思います。

塾創立125周年の寄付の大半を投じて建設された新病院（現在の新棟）の建設にあたって故石川忠雄塾長は医学部・病院の慢性的な赤字を改善することを条件として掲げたと聞いております。しかしその改革は長く実行されませんでした。平成に入ってから医学部＋病院の帰属収支差額はマイナス20億から30億の赤字を経常的に出し、塾財政の大きな負担となっていました（図1）。私たちはこの歴史を決して繰り返さないようにしなければなりません。平成11年には当時の鳥居泰彦塾長のご高配により総合医科学研究センターが建設されました。帰属収支差額ではこの事業に基づく建物や設備は1号資産として計上されるため、一瞬黒字となりましたが、その後は減価償却分が支出に加算されるため、基本的には赤字体質の抜本的改革に着手できないまま創立90周年を迎えました。

一方、私たちは総合医科学研究センターを利活用して、基礎臨床一体型医学・医療の礎になる研究領域を着実に構築し、多くの優秀な若手研究者を学内外から招くことによって極めてアクティブな研究者集団を育成してきました。センターが開設されて今年は10年の節目にあたり、幹細胞医学・システム生物学の領域で多くの成果が生まれるようになりました。

基礎・臨床一体型医学・医療の実現は医学部の創設者である北里柴三郎博士が掲げた建学の理念です。信濃町キャンパスでは創立90年を迎えた平成19年から「財務の分離・機能の協生」を合言葉に、創立100年までに建学の理念を込めた最高の医学府を造るべく改革を推進してきました。若手医師・研究者を支援育成するために、無給医解消・医学部人材と非医学部人材の融合的登用・医局制度の旧弊打破の3つを目標に掲げて政策を実行する必要がありましたが、これらを実施するための財源の確保が喫緊の課題でした。

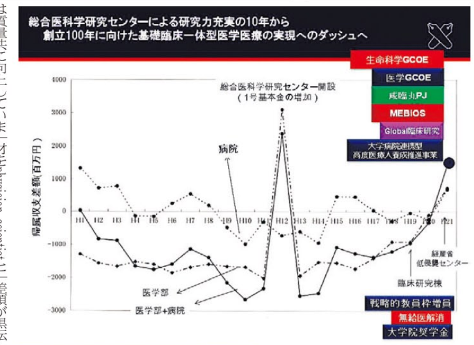
財の独立なくして学の独立はありません。年間経常的予算の内訳の徹底的な見直し、長く課題であった教員人事制度改革に着手し、平成21年4月からこれらの政策は本格的に稼働し、病院人件費の膨張させずに問題を解消することができました。一方で、競争的研究資金獲得ワーキンググループを組織し、強い領域はより強く、弱い領域には新しい学際領域の構築による教育研究組織の改編を行うことによって、再生医学・幹細胞医学はもとより、システム生物学、先端テクノロジーを駆使したがん低侵襲医療など多彩な領域でリーディングリサーチを展開できる基盤を形成することができました。内部の財務改革・病院経営改革と世界を舞台にした研究者の挑戦が噛み合うことによって大きな成果が決算に反映されたものと考えます。

若手医師・研究者への支援を大目標に掲げたこの改革の諸政策は、平成21年度のスタートとともに本格的に稼働し、将に「改革元年」になりました。すでに平成20年度から大学院博士課程対象の大型奨学金制度の導入と2つのグローバルCOEプログラムの導入により博士課程学生の活動は再生医学・システム生物学領域の研究を中心に、基礎・臨床一体型医学研究は質量共に向上しています。さらに福澤諭吉先生が北里柴三郎博士に送ったとされる七言絶句に因んだ「贈医奨学金制度」を設置し、医学部学生に対する支援事業もスタートしました。また平成21年度からは若手医師の待遇改善、教授（有期・医学部）、助教（有期・医学部）が本格導入され、ミッションを明確にして時限付きの目標設定を行う教員の増員によって医学部・病院の機能の充実が戦略的に図れるようになりました。

現在、医学部では創立100年に向けた取り組みとして「患者さんを中心においたグループアプローチによる医学・医療の実践」を実現できる人材の育成を「がん制圧」をモデルとして推進しています（図2）。この目的達成のためには、医学部人材をphysician scientistとして養成するとともに、学生のうちから看護医療学部や薬学部の学生とチームを組んで一つの目標を達成することを体験してもらうことが極めて重要と考えています。教職員も学生も、異分野のチームメンバーの一人一人が「一身独立」の気概を以って最強のグループアプローチを実践できるように、2017年の医学部創設100年を目指して研鑽を積んで参りたいと考えております。

平成21年度、帰属収支差額が黒転したことを機に、これまで真摯な議論が進んでも予算の創出が実現しなかったために立ち遅れていた教育インフラおよびソフトの充実を、堅実な事業計画を立てることによって実現していきたいと考えております。またこの秋には第2校舎の一階に学生用の教育スペースを増設致します。学務委員会、医学教育統括センターだけでなく学部学生諸君の声も取り入れながら医学部の教育の充実を図るように致します。

長い赤字の時代の間、医学部外の塾員の皆様には多大のご支援を賜りました。塾全体の財務改革のおりに幾度も議論された赤倉山荘の存続もしかり、また今年の入学式で昭和35年卒三田会の皆様から医学部の塾生の教育充実費として賜りました多額のご寄付もしかりであります。こうした塾からのご厚情を私どもは忘れません。残念ながら現在125年記念事業で建設された病院も老朽化が進み、建物のハードの補修もままならない現状もあります。総合医科学研究センターを建設していただいたことを糧として世界を先導できる基礎研究基盤を造ることができました。是非とも医学部・病院教職員の悲願である新病院の建設を実現することによって真に「基礎臨床一体型医学医療の実現」を達成できるよう、私共は一丸となって研鑽を重ねて参ります。三四会の先生方におかれましても、今後ともより一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



慶應義塾大学医学部三四会

平成22年度定例評議員会

6月12日（土）、午後3時半から2時間半にわたり、平成22年度定例評議員会が新棟11階大会議室で開催された。吉野副会長から開会の辞とともに、出席者70名、委任状103名、計173名で評議員総数234名の過半数を超え、会則20条3項の定足数を満たすことが確認された。山田議長の登壇後、平成21年度の物故会員117名に対し出席者が黙祷を捧げた。

比企会長の挨拶では、評議員会に先立ち、第79回北里記念式が開催されたことと、慶應義塾創立150年記念募金が目標を上回る約280億円、信濃町新病院棟建設資金が約10億円の寄付をいただけたと報告した。なお高畠弘君の熱心な活動により、36回生の募金率は極めて高い84・1％となり、理事会決定を経て、代理の矢部裕君に感謝状が贈呈された。

議案は、第1号議案　平成21年度三四会事業報告（古梶理事）、第2号議案　平成21年度三四会会計決算（末岡理事、渡辺理事）、第3号議案　財産目録、会計事務処理並びに財産管理、監査報告（熊井監事）、第4号議案　平成22年度三四会事業計画（案）（菅沼副会長）、第5号議案　平成22年度三四会会計予算（案）（末岡理事、渡辺理事）、第6号議案　三四会入会希望者について（菅沼副会長）まで審議され、いずれも了承を得た。

その後、末松医学部長から挨拶とともに「慶應義塾大学医学部・病院の構造改革　―財務の分離・機能の融合―」についての報告があった。病院での無給医の解消、医学部での競争的研究支援等、平成21年度は医学部で7億円、病院で7億円、合わせて14億円の黒字を得たことが説明された。

最後に、水野副議長から閉会の辞が述べられた。

閉会後、隣室にて和やかに懇親会が開かれた。

（近藤太郎　68回）

報告を行う比企能樹会長

質問者は山本光興君（41回　北多摩支部長）

150年記念事業と記念募金

三四会会長　比企　能樹（外37回）

慶應義塾創立150年という節目が夢のように過ぎ、今年は152年目となりました。2005年から5年間、塾員・社中に広く呼びかけられた150年記念募金の寄付申込の総額が本年の5月末の時点で、281億2324万7850円に達し、今秋9月をもって一応の終止符を打ちます。そしてこの募金は、既に慶應義塾の様々な所に活かされ、未来への夢に繋がる形が各キャンパスに見られます。

信濃町においても再開発プロジェクトが緒に就いて、旧い別館の建物は既に無く3号館の北棟が着工、引き続き南棟のフロアーデザインも進められています。即ち3号館北棟には低侵襲療法開発研究センターと既在棟の2号棟代替施設、更に南棟には現在の1号棟の病室と予防医療センターや外来化学療法部、PET・RI部門等の設置が予定され、新しい息吹が吹き込まれつつあります。

150年記念募金の内には、「新病院棟建設指定寄付」として塾基金室で管理されている、募金額10億0644万0400円も含まれます。これらは三四会員をはじめ看護医療学部、薬学部関係の皆様、医学部職員有志の皆様、医学部関連の有志の方々、その他篤志家などの皆様が応じられた貴重なご寄付であり、信濃町再開発資金として、充てられております。

しかしながら、申す迄もなくこれだけでは超近代医療の実践の場としての新病院棟の全てはとても建ちません。しかも社会状況、殊に経済状況はリーマンショック以来厳しい波を被りました。ここに来て有り難いことには、塾長のもと執行部が、近隣の大学の医療施設に比べわが慶應病院が非常に古くむしろ危険な状況であると認識され危機感も強められて、新病院棟建設を完成させるべく本格的な体制に入ろうと、前向きな検討を始められたやに伺ったことであります。この機に、私共と致しましては信濃町病院棟建設への切なる希望が活かされるよう強い思いを、執行部へ自助努力として表わさねばならないと考えます。

これまで三四会員の凡そ20%の方々が募金をされており、お名前を匿名希望を除き『三田評論』並びに『医学部新聞』にその経緯を掲載して、感謝を表して参りました。

三四会理事会・募金委員会では、ご寄付頂いた方々のご厚意に応えるため、病院として何ができるかについて既に検討を始めております。例えば、現在の病院をご利用されるにあたり、どういうサービスを求められているか、何が足りないか、殊に新病院棟建設にご協力頂いた方々や、塾員の皆さまに対する支援などについても、塾・医学部・病院執行部と協議を重ねております。

2017年に我が医学部は創立100年を迎えます。この時に信濃町の新しい病棟に新入生を迎え、世界に向った新しい慶應医学の発展を見ようと夢を抱いております。もう一歩、この夢に向かって歩を進めるべく、医学部・病院・三四会は更に、その意欲を塾に示さなければならないと考えます。

東医体開催目前！

3連覇のカギを握る注目競技・選手たち

詳細な情報は4面「東医体観戦ガイド」にて紹介

ヨット部

狙うは3連覇。個人賞への期待も高いのが主将の楠本竜也君（4年）。

ゴルフ部

男子・女子ともに優勝を狙える実力派が揃っている。

競走部

男子は8連覇中。写真は昨年男子100mで優勝の入來君（90回）。

テニス部

目指すは2連覇。主将を務める小室仁君（写真・4年）も気合い十分。

馬術部

昨年好成績に貢献した部員を主軸に2連覇を狙う。写真は主将・蛭川和也君（4年）。

剣道部

「今年こそ！」と意気込む部員たち。写真は6月に行われた春関東の大会時。

鑑往知来

医療においても競争戦略は重要であると思う。独自性のある戦略的（成長性があってまねされにくい）立ち位置を目指し、競争優位性のある事業を計画して実行する。事業計画は、本当のところ「誰に」「何を」「なぜ」提供するのか、という本質的意義から導き出されたものでなくてはならない。

一橋大学楠木建氏の「ストーリーとしての競争戦略」を読んだ。競争優位性ある事業というだけではサッカーの選手を配置しただけのようなもので不十分。各々の事業が、選手が動き、パスが出てゴールにいたる様子が動画のようにイメージできる様なストーリーが必要。「これまで」と「これから」がスムースに繋がり、リーダー自身が面白くて仕方がないような、「思わず人に話したくなるような」ストーリーが、人を感動させ、チームが成功に導く、という。

三四会赤倉山荘運営委員会主催の慶應赤倉アカデミー（KAA）に初回の講師として来ていただいたのは末松誠先生と岡野栄之先生だった。研究や慶應医学部についての「これまで」と「これから」の骨太で志に貫かれたストーリーは、学生たちの瞳を輝かせた。両先生も本当に楽しそうに深夜（明け方？）までお話しいただいた。KAAは学生とOBの交流を通じ、学生に夢と感動を感じてもらいたいと企画された講演会である。主催者側（本来の顧客である学生の様子を見守るべき立場）であるにも拘らず、小生自身いたく感動した。なにしろ、「面白くて、思わず人に話したくなるような」ストーリー満載だったのだ。

その後、坪田一男先生、安井正人先生、北川雄光先生、菅沼安嬉子先生、大家基嗣先生が学生たちに夢と感動を与えてくださった。今年は第5回。高橋孝雄先生と荒木葉子先生にお越しいただく。今年もまた、学生たちの瞳輝き心高鳴る「ストーリー」を、共に体験できることを楽しみにしている。

（深川和己　眼68回）